

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は明治 40 年に設立され、今年で創立 119 年を迎える工業高校である。35,000 名を超える卒業生は産業界や自治体など様々な分野で活躍し、産業社会の発展に大きく貢献している。

これまで幅広い分野で産業社会を支える人材を輩出してきた本校は、今後も「大阪 No. 1 の工業高校」として経済社会の様々な情勢の変化に対応し、技術者・科学者として必要な力を身につけた人材を育成するとともに、社会の発展に貢献するために引き続き重要な役割を担っている。

これらをふまえ、本校では次の項目を目標に、その実現に向けた教育活動を実践するものである。

1 工業・科学技術分野の理論と技術を支え、将来の科学技術イノベーションを牽引する技術者・科学者として求められる資質・能力の育成。

2 Society 5.0 で実現する社会に必要とされる高度で確かな知識・技術を習得するとともに、国際的な舞台でリーダーとして活躍し社会に貢献できる力の育成。

3 全ての教育活動に主体的・協働的に取り組むことを通じて、課題を発見し解決する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を育むとともに、生涯にわたって学び続ける態度の育成。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1)新しい知識・情報・技術があらゆる領域で重要性を増す「知識基盤社会」において、知識の理解の質を高めることで確かな学力を身につけさせるとともに、技術者・科学者として必要な資質・能力を育成する。
- ア 「Society5.0」で実現する社会を担うための力、国際社会を生き抜く力の育成に向け、ICT の活用による効果的・効率的な授業を実践することで学びに対する意欲を向上させ、「知識基盤社会」において必要な確かな学力を身につけさせる。
- イ すべての教育活動を通じ、課題を発見し解決する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を育むことで専門的な知識・技術の定着をはかるとともに、多様な課題に対応するための課題解決能力を育成する。
- ※学校教育自己診断（教職員）の質問「授業において ICT 機器を活用している」に対する肯定的回答率を令和 10 年度には 90%以上を維持する。  
(R5 92% R6 97% R7 100%)
- ※学校教育自己診断（生徒）の質問「授業において ICT 機器を活用している」に対する肯定的回答率を令和 10 年度には 90%以上を維持する。  
(R5 91% R6 92% R7 93%)
- ※学校教育自己診断（生徒）の質問「グループ学習や自ら調べて考える学習、課題を発見し協働して取り組む学習などの授業において、授業内容がよく理解できたか」に対する肯定的回答率を令和 10 年度には 90%以上にする。(R5 89% R6 88% R7 89%)
- (2)生徒が、基礎的・基本的な知識や技能の習得も含め、学習内容を確実に身につけることができるよう、生徒の興味・関心等に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を行うことにより、個に応じた指導の充実をはかる。
- ア 生徒の自己実現に向け、少人数授業や習熟度別授業、グループ学習を展開するとともに、授業内容の改善により理解度、満足度を向上させる。
- イ 工業科目で学んだ内容に関連した職業資格や各種検定試験にチャレンジすることはもとより、職業資格を取得する意義、職業との関係、職業資格を制度化している目的について探究する。また、技術者・科学者として国際的な舞台で活躍できるよう、実用英語能力検定などにもチャレンジすることで 4 技能 5 領域にわたる総合的な語学力を習得する。
- ※学校教育自己診断（生徒）の質問「本校に入学して学力がついたと感じていますか」に対する肯定的回答率を令和 10 年度には 85%以上にする。  
(R5 79% R6 77% R7 77%)
- ※学校教育自己診断（生徒）の質問「本校の資格取得の対策についてどのように思いますか」に対する肯定的回答率を令和 10 年度には 90%以上を維持する。(R5 89% R6 89% R7 90%)
- ※英検等の受検者のうち CEFR A2 レベル以上の資格取得者を令和 10 年度には 30%以上にする。(R5 26% R6 29% R7 24%)

2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

- (1)学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、たくましく生きる力を育むために必要な資質・能力を身につけることができるよう、基本的生活習慣を確立させ、社会のルールを理解させる。
- ア 遅刻や身だしなみ、スマートフォンの使用に関する指導を行い、「時間を守る」「身だしなみを整える」「集団としてのルールを遵守する」ことを通じて道徳心や規範意識を醸成する。
- イ 合同 LHR を活用し、交通安全講話・薬物乱用防止啓発講座・消費者被害防止啓発講座を行うことで道徳心・自制心を育み、自他を大切にする心とマナーを守る態度を育てる。
- ※遅刻が常態化する生徒（年間遅刻 10 回以上）を令和 10 年度には 15 名以下とする。(R5 25 名 R6 18 名 R7 30 名)
- ※交通安全講話・薬物乱用防止啓発講座・消費者被害防止啓発講座の事後アンケートによる肯定的回答を、令和 10 年度には全て 90%以上を維持する。  
(R5 交通安全講話 93% 薬物乱用防止啓発講座 91% 消費者被害防止啓発講座 95% R6 93% 92% 92% R7 93% 96% 91%)
- (2)他者を尊重し思いやる心、適切な人間関係の構築に向けたコミュニケーション能力、多様性を受け入れる力などを育むための人権教育を推進し、人権尊重のための知識や態度を養う。
- ア 自分自身はもとより、人との関わり、集団や社会との関わりに関する道徳的価値についての理解を基に、様々な体験や思索の機会等を通して人としての在り方生き方について考えを深めさせる。
- イ 情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方や態度を育てるため、自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、犯罪被害を含む危険の回避など、情報を正しく安全に利用するための情報モラル教育を徹底し、技術者・科学者としての倫理を醸成する。
- ※学校教育自己診断（生徒）の質問「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」に対する肯定的回答率を令和 10 年度には 90%以上を維持する。(R5 92% R6 91% R7 91%)
- ※学校教育自己診断（生徒）の質問「情報機器の取り扱いに際し、危険を回避し責任ある行動をとることができるか」に対する肯定的回答率を令和 10 年度には 90%以上を維持する。(R5 95% R6 94% R7 96%)
- (3)卒業後の社会的・職業的自立や自分らしい生き方を実現する中で社会貢献できるよう、キャリア教育の充実をはかるとともに、心身の健康や体力を保持増進するための力を育成する。
- ア 企業や大学の見学をはじめ、外部講師による講演会・説明会（進学・企業就職・公務員）などを通じ、進路に関する具体的な情報を知る機会を増やすことで生徒の進路意識を高める。

- イ 実力テストの結果や過去の大学入試データなどにに基づき、各教科と連携した定期的な進学補講を行う。
- ウ キャリアパスポートノートを作成させることで、自己のキャリア形成はもとより Society5.0・SDGs に関する内容にも触れ、情報化やグローバル化、地球環境などに対する意識付けをはかる。
- エ 生徒会活動を活性化し、部活動を推進することによって生徒一人ひとりの自主性・社会性を育む。
- オ 生涯にわたって自分らしい生活を実現するために、心身の健康や体力の保持増進をはかる。
- カ 教育相談体制を充実させ、生徒に寄り添った支援を行う。
- ※令和 10 年度まで就職内定率 100%を維持する。(R5 100% R6 100% R7 100%)
- ※大阪工業大学の専門高校特別推薦合格率を令和 10 年度には 80%以上とする。(R5 82% R6 68% R7 75%)
- ※部活動加入率を令和 10 年度には 75%以上を維持する。(R5 72% R6 72% R7 76%)

3 専門的な知識・技術の定着

- (1)各種競技会への出場をはじめ、就業体験活動などを通して自ら学ぶ意欲を高めるとともに、様々な職業や年代などとながりをもちながら協働して課題の解決に取り組む姿勢を養う。
- (2)興味関心の増加をはじめ、将来に向け最も重要である進路決定につなげるため、社会において必要な専門資格試験や検定に積極的にチャレンジし、合格率を高めるとともに、多くの生徒にジュニアマイスター顕彰を受彰させる。
- ※学校教育自己診断（生徒）の質問「本校の資格取得の対策についてどのように思うか」に対する肯定的回答率を令和 10 年度には 90%以上を維持する。(R5 89% R6 89% R7 90%)
- ※ジュニアマイスター顕彰受彰者を令和 10 年度まで毎年 60 名以上輩出する。(R5 75 名 R6 72 名 R7 52 名)

4 学校の組織力向上

- (1)全教職員が一丸となって組織的に本校の魅力について対外的に発信し、志願者増に繋げる。
- (2)国際交流に積極的に取り組む。
- (3)将来計画委員会等において本校の更なる魅力化について検討を進める。
- (4)PTA、同窓会や各種団体などとの連携による教育コミュニティを構築し、教員個々の教師としての力量を高めるとともに、学校力向上に向けた環境整備をはかる。
- (5)大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する。

ア 校務運営について業務の見直しや ICT を用いて効率化を図る。

イ 部活動方針の遵守し、適切な休養日等を設定し、適切な指導・運営体制を構築する。

ウ ゆとり週間等の取組を通じて、休暇を取得しやすい環境を整備する。
- ※入学者選抜における志願倍率を、毎年 1 倍以上確保する。(R6 選抜 0.98 R7 選抜 0.94 R8 選抜 1.01)
- ※学校教育自己診断（生徒）の質問「本校に入学して良かったと思うか」に対する肯定的回答率を令和 10 年度には 90%以上にする。(R5 85% R6 86% R7 85%)
- ※教員のための技術講習会を、毎年各学科 1 回以上開催する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕 | 学校運営協議会からの意見 |
|---------------------------|--------------|
|                           |              |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標      | 今年度の重点目標                                         | 具体的な取組計画・内容                                                                                                                                                                                                | 評価指標〔7 年度値〕                                                                                                                                                                                                                        | 自己評価 |
|------------|--------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1 確かな学力の育成 | (1)ア ICT の活用による効果的・効率的な授業を実践し、学びに対する意欲・学力を向上させる。 | (1)ア 全ての授業において 1 人 1 台端末を積極的に活用するとともにリーディング GIGA ハイスクール研究校に整備されたプロジェクタや電子黒板などの設備を効果的に活用する。座学においては視覚的アプローチ等を積極的に行い、実験や実習においては 1 人 1 台端末を活用した統計処理や動画検証を行うなど、ICT の活用で教育効果を高める。また、新たに導入された VR ソフトを積極的に実習で活用する。 | (1)ア・全ての授業において、1 人 1 台端末等を積極的に活用し、教職員アンケートにおける「授業で ICT 機器を活用している」との回答 90%以上を維持する。 <div>[100%]</div><br><div>・また、授業において ICT 機器を活用している時間を、授業時間の 30%以上とすることを目標とし、生徒アンケートにおける「授業で ICT 機器を活用している」との回答 90%以上を維持する。<div>[93%]</div></div> |      |
|            | イ 課題を発見し解決する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力をはぐくむことで専門    | イ 工業技術基礎・実習・課題研究をとおして PBL を実践する。これにより発見した課題について、解決策を見出すためのディスカッションを行う過程でヒントを与え、生徒同士で議論                                                                                                                     | イ 学年・学科ごとに PBL 発表会を開催し、研究成果を共有する。3 年生の課題研究発表会では 1・2 年生が見学する機会を設け、次年度以降に取り組む自身の研究                                                                                                                                                   |      |

府立都島工業高等学校

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |  |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|                       | <p>的な知識・技術の定着をはかる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 習熟度別学習・グループ学習を展開し、積極的かつ協働的に学ぶことを通じて理解度、満足度を向上させる。</p> <p>イ 職業資格や各種検定試験にチャレンジするとともに、職業資格を制度化している目的について探究する。</p>                                                                                                                      | <p>を深めさせる。そうすることで思考力・判断力・表現力を養うとともに、研究の成果をまとめ、発表することでプレゼンテーション力を向上させる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 各教科において「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、問題を提起し、グループ学習を中心としたアクティブ・ラーニングを実践することで互いに教え合う雰囲気を醸成する。それらを通じて積極的に学びに向かう態度を育成し、授業の理解度、満足度を向上させる。</p> <p>イ PBL 学習を通じて職業観を高め、その実現に必要な知識・技術や資格との関連について調べ学習を行う。その上で、めざす資格を取得するための目的を明確化させるとともに、自己のキャリアイメージを具体化し、資格取得に向けた強い志を養う。その結果、高度な資格にもチャレンジすることでめざす職種、めざす学部を意識した進路選択を実現する。また、知識・技能審査の一つである実用英語技能検定等の資格取得を奨励し、対策講習の実施を通して合格者を増加させる。</p>                                                                   | <p>内容についてイメージをもたせる。また、1・2年生が回答するアンケートにおいて、「3年生の研究内容にかかる評価」を80点以上とする。</p> <p>[83点]</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒アンケートにおいて、「対話を重視した授業内容であり、よく理解できた」「理解できた」とする回答を85%以上とする</p> <p>[81%]</p> <p>・保護者アンケートにおいて、「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」に対する肯定的回答を80%以上とする。</p> <p>[76%]</p> <p>イ・第三種電気主任技術者3名以上の合格者を輩出する。</p> <p>[2名(上期)]</p> <p>・測量士補15名以上の合格者を輩出する。</p> <p>[24名]</p> <p>・進学において国公立大学、工業高等専門学校、私立大学(関関同立・産近甲龍)への進学率を30%以上とする。</p> <p>[21%]</p> <p>・英検等の受検者のうちCEFR A2レベル以上の資格取得者を25%以上にする。</p> <p>[24%]</p> |  |
| 2<br>豊かでたくましい人間性のはぐくみ | <p>(1)</p> <p>ア 遅刻や身だしなみ、スマートフォンの使用に関する指導を行うことで道徳心や規範意識を醸成する。</p> <p>イ 合同LHRを活用し、自他を大切にすることとマナーを守る態度を育む。</p> <p>(2)</p> <p>ア 様々な体験や思索の機会等を通し、人としての在り方生き方について考えを深めさせる</p> <p>イ 様々な情報を正しく安全に利用するための知識・スキルの習得に向け、情報モラル教育を徹底する。</p> <p>(3)</p> <p>ア 進路に関する具体的な情報を知る機会を増やすこ</p> | <p>(1)</p> <p>ア 登校時の遅刻指導や身だしなみ指導、スマートフォンの校内使用規定に関する指導を行い、時間を守る、身だしなみを整えるなど、集団でのルールを遵守することの意義や必要性について繰り返し指導する。そうすることで社会の中で協働し、力強く生き抜くための基礎となる道徳心や規範意識を醸成する。</p> <p>イ 合同LHRを活用して交通安全講話・薬物乱用防止啓発講話・消費者被害防止啓発講話を行うことで道徳心・自制心をはぐくみ、自他を大切にすることとマナーを守る態度を育てる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 全ての教育活動をととして人権教育を推進することはもとより、学年ごとにテーマを設定した人権学習会、外部講師を招聘した人権講演会を開催し、人としての在り方生き方について考えさせる</p> <p>イ 成年年齢の引き下げに伴う消費者責任をはじめ、政治や社会への積極的な参画に向け、関係教科・HRでの指導、外部講師による情報モラル講演会を実施し、情報モラルの向上をはかる。</p> <p>(3)</p> <p>ア・公共職業安定所や大学・専門学校と連携し、各学年を対象にキャリア教育に関する講演</p> | <p>(1)</p> <p>ア 年間遅刻が10回となる前段階から親身になって対話を行うなど、粘り強く繰り返し指導することにより、遅刻等が常態化する生徒を20名以下に減少させる。</p> <p>[30名]</p> <p>イ 各種講演の内容を充実させることにより、講演会後のアンケートにおいて、講演内容を十分理解し、「自身はもとより、自他の健康や安心安全について改めて考えるよい機会になった」との肯定的な回答が85%以上を維持する。</p> <p>[93%]</p> <p>(2)</p> <p>ア 学年別学習会、外部講師による講演会後のアンケートにおいて「人権に関する考えがより深まった」という回答が95%以上を維持する</p> <p>[97%]</p> <p>イ 生徒アンケートにおいて「情報機器の取り扱いに際し、危険を回避し責任ある行動をとることができるか」との質問に対し、「できる」との回答が90%以上を維持する。</p> <p>[96%]</p> <p>(3)</p> <p>ア・進路に関する講演会・説明会を各学年とも年5回以上行う。</p>      |  |

|                                   |   |                                                               |                                                                                                                                                            |                                                                                                                                            |  |
|-----------------------------------|---|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 2<br>豊かであ<br>くましい<br>人間性の<br>はぐくみ |   | <p>とで生徒の進路意識を高める。</p>                                         | <p>会・説明会を開催する。</p> <p>・講演会等を活用することで早期の段階から進路に関する意識を高めさせ、就職希望者の内定率を高い水準で維持する。</p>                                                                           | <p>〔1 学年 5 回、2 学年 6 回、3 学年 7 回〕</p> <p>・就職内定率 100％、一次内定率 90％以上を維持する。</p> <p>〔就職内定率 100％、一次内定率 87％〕</p>                                     |  |
|                                   | イ | <p>進学希望者に対して定期的な進学補講を行うことにより、進学率を向上させる。</p>                   | <p>イ・高専編入学希望者一人ひとりに応じた学習計画を立案し、数学や英語などの教科と連携し、編入学試験対策補講を実施する。</p> <p>・進学補習を通じて例年多くの生徒が進学する大阪工業大学の過去問に取組み、合格者数を増加させる。</p>                                   | <p>イ・特色ある進路選択の一つである工業高等専門学校への編入学試験合格率 70％以上を維持する。〔50％〕</p> <p>・大阪工業大学の合格者 30 名以上を維持するとともに、同大学の専門高校特別推薦入試において、70％以上の合格率を維持する。〔33 名 75％〕</p> |  |
|                                   | ウ | <p>キャリアパスポートノートにおいて自己のキャリア形成をはじめ、地球規模での課題である環境にも意識をめぐらせる。</p> | <p>ウ キャリアパスポートノートを通じて Society5.0 の時代に生きる人材としての役割、AI の果たすべき役割等について学習させ、情報化に対する意識、興味・関心を高める。</p>                                                             | <p>ウ キャリアパスポートノートについてのアンケートを実施し、情報機器を用いて進路に関する情報を収集している割合を全学年とも 75％以上にする。</p> <p>〔1 年 86％ 2 年 90％ 3 年 91％〕</p>                             |  |
|                                   | エ | <p>生徒会活動の一層の充実と部活動のさらなる活性化により帰属意識や自治意識を高める。</p>               | <p>エ・生徒議会、朝の挨拶運動、都工祭（体育祭・文化祭）を通して生徒会執行部がリーダーシップを発揮し、生徒主体の学校行事をつくり上げる。</p> <p>・スポーツや文化、科学等に親しむことで学習意欲、体力、技能を向上させ、責任感、連帯感の涵養等につなげるため、部活動をより活性化することに取り組む。</p> | <p>エ・生徒議会を 10 回開催し、生徒の意見を集約・実践することで開かれた学校づくりを行う。〔11 回〕</p> <p>・部活動加入率 75％以上を維持する〔76％〕</p> <p>・全部活動の入賞を 50 回以上とし、部活動の活性化に繋げる。〔65 回〕</p>     |  |
|                                   | オ | <p>学校保健活動を充実させ、心身の健康や体力を保持増進するための力を育成する。</p>                  | <p>オ・職員保健委員会及び生徒保健委員会の活動をさらに活性化させ、学校保健活動の充実をはかるとともに、教職員・生徒の心身の健康や体力を保持増進するための啓発活動を行う</p> <p>・生徒に対する保健指導、健康相談などを学校医等関係諸機関と連携して行う。</p>                       | <p>オ・職員保健委員会及び生徒保健委員会を年 5 回以上実施し、年間を通じたテーマを定め研究活動を行い、成果を発表する。〔5 回〕</p> <p>・定期健康診断の結果、再受診が必要な生徒に事後措置を複数回行い、70％以上の生徒の再受診を完了させる。〔80.7％〕</p>   |  |
|                                   | カ | <p>学科の枠を超えた生徒情報の共有化に努めるとともに、教育相談体制を充実させ、生徒に寄り添った支援を行う。</p>    | <p>カ・生徒支援委員会での情報共有体制を強化するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の外部人材との連携により全教職員が丸となった生徒支援を行う。</p>                                                                  | <p>カ・生徒アンケートにおいて、「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」という肯定的回答を 75％以上とする。〔76％〕</p>                                                       |  |

|                   |                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |  |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 3<br>専門的な知識・技術の定着 | <p>(1)</p> <p>各種競技会への出場をはじめ、就業体験活動などを通して様々な職業や年代などつながりを持ちながら協働して課題の解決に取り組む姿勢を養う。</p> | <p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・建築設計競技にチャレンジすることで専門的知識を向上させるとともに、コンペで認められるための資料づくり・プレゼンテーション技術の向上をはかる。</li><li>・ものづくりコンテスト（木材加工部門）にチャレンジし、現在の建築技術をはじめ、伝統工法による技術・技能を継承する。</li><li>・「ものづくりコンテスト（測量部門）」にチャレンジし、外業とデータ処理を通じて測量スキルを向上させるとともに、国家資格である測量士補試験に合格し、技術系公務員としてのキャリアにつなげる。</li><li>・「コンクリートカヌー競技大会」「橋梁模型コンテスト」などものづくり系競技大会に出場し、制作過程の学びを通して専門的技能を習得させる。</li><li>・工業6学科ごとの先輩講座やOB進路懇談会を開催し、技術者としての在り方や進路選択の方法について学ばせる。</li></ul> | <p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・建築設計競技入賞<br/>〔1名入選〕</li><li>・ものづくりコンテスト（木材加工部門）近畿大会出場<br/>〔近畿大会2名出場〕</li><li>・ものづくりコンテスト（測量部門）入賞<br/>〔7位〕</li><li>・コンクリートカヌー競技大会入賞<br/>〔製作の部3位、アイデアの部4位<br/>競漕の部2位、総合の部2位〕</li><li>・棟梁模型コンテスト入賞<br/>〔入賞せず〕</li><li>・各学科で先輩講座を1回以上開催する。受講後にグループディスカッションを行い、技術者・科学者としてのあり方について考えさせ、それに関するレポートを提出させる。〔6学科中5学科で1回以上実施〕</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |  |
|                   | <p>(2)</p> <p>各学科で専門資格試験にチャレンジし、合格率を高めるとともに職業と資格の関連を理解させ、明確な進路意識を確立する。</p>           | <p>(2)</p> <p>各学科で以下の資格試験に取組み、学ぶ意識の向上につなげるとともに、ジュニアマイスター顕彰受彰者を60名以上輩出する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・技能検定機械加工普通旋盤作業3級</li><li>・技能検定機械検査機械検査作業3級</li><li>・機械保全技能検定機械系保全作業3級</li><li>・機械製図検定</li><li>・2級建築施工管理技士補</li><li>・建築大工技能士</li><li>・建築CAD検定</li><li>・測量士補</li><li>・2級土木施工管理技士補</li><li>・第三種電気主任技術者</li><li>・第一種電気工事士</li><li>・第二種電気工事士</li><li>・基本情報技術者</li><li>・ITパスポート</li><li>・危険物取扱者（乙種第4類）</li></ul>                       | <p>(2)</p> <p>各資格検定等の合格率を次のとおりとする</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ジュニアマイスター顕彰 計60名以上<br/>〔52名〕</li><li>・普通旋盤作業3級 70%以上<br/>〔100%〕</li><li>・機械検査作業3級 70%以上<br/>〔86%〕</li><li>・機械保全技能検定3級 80%以上<br/>〔100%〕</li><li>・機械製図検定 60%以上<br/>〔47%〕</li><li>・2級建築施工管理技士補 40%以上<br/>〔57%〕</li><li>・建築大工技能士3級 80%以上<br/>〔100%〕</li><li>・建築大工技能士2級 2名以上<br/>〔3名〕</li><li>・建築CAD検定3級 70%以上<br/>〔100%〕</li><li>・建築CAD検定2級 60%以上<br/>〔86%〕</li><li>・測量士補 25%以上<br/>〔30%〕</li><li>・2級土木施工管理技士補 70%以上<br/>〔65%〕</li><li>・第三種電気主任技術者 3名以上<br/>〔2名、全国高校生合格者ランキング第2位〕</li><li>・第一種電気工事士 60%以上<br/>〔73.9%〕</li><li>・第二種電気工事士 70%以上<br/>〔71.4%〕</li><li>・基本情報技術者 3名以上<br/>〔6名〕</li><li>・ITパスポート 10名以上<br/>〔7名〕</li><li>・危険物乙種第4類 25%以上<br/>〔31%〕</li></ul> |  |

|                                       |                                                                 |                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                |  |
|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 4<br>学校<br>の<br>組<br>織<br>力<br>向<br>上 | <p>(1)</p> <p>6学科を有し、進学にも就職にも強みのある本校の魅力を積極的に対外的に発信する。</p>       | <p>(1)</p> <p>学校ホームページ、体験入学、学校説明会、公開授業、出前授業、文化祭等で中学生はもちろんのこと広く大阪府民に本校の魅力を発信し工業高校のよさを理解してもらうとともに、志願者増に繋げる。また、国内外からの学校視察を積極的に受け入れ、本校の魅力を積極的に発信する。</p>     | <p>(1)</p> <p>・学校ホームページを年間 150 回以上更新し、日々の学校の取組みを伝える。<br/>〔286 回〕</p> <p>・文化祭に 3,000 人以上の一般の方に来場してもらい、本校生徒の様々な教育活動の成果を広める。<br/>〔3722 人〕</p>                     |  |
|                                       | <p>(2)</p> <p>国際交流に積極的に取り組む。</p>                                | <p>(2)</p> <p>姉妹校であるトラバイ高校（スペイン）や友好連携校である漢陽工業高校（韓国）をはじめとする海外の学校と積極的に交流を行うことにより、生徒の国際感覚を醸成し、国際社会において、地球的視野に立ち主体的に行動するための態度・能力を育成する。</p>                  | <p>(2)</p> <p>・海外の学校等による本校への視察を3回以上受け入れる。<br/>〔2 回〕</p> <p>・海外の学校等の生徒とのオンライン交流会等を3回以上実施する。<br/>〔4 回〕</p>                                                       |  |
|                                       | <p>(3)</p> <p>将来計画委員会を通じて、本校のさらなる魅力化について検討を進める。</p>             | <p>(3)</p> <p>将来計画委員会等を通じて、府教育庁とも情報交換をしながら、本校のさらなる魅力化について検討を進める。</p>                                                                                    | <p>(3)</p> <p>・魅力化を検討する上で中学生のニーズを把握するため、中学校との情報交換の場を年5回以上設定する。<br/>〔5 回〕</p>                                                                                   |  |
|                                       | <p>(4)</p> <p>本校独自の教育コミュニティを構築し、学校力向上に向けた環境整備をはかる。</p>          | <p>(4)</p> <p>外部団体との連携による「教員のための技術講習会」を行う。また、教員間の学習会・授業見学を積極的に行い、意見交換を通じて自己研鑽に努める。</p>                                                                  | <p>(4)</p> <p>・各学科で年1回、本校の施設・設備を活用した教員のための技術講習会を開催する。<br/>〔6 学科中3 学科で開催〕</p> <p>・教員間による授業参観期間を2回以上設定し、他教科の授業を参観し意見交換することにより教員としての見識を広める。<br/>〔2 回〕</p>         |  |
|                                       | <p>(5)</p> <p>大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する。</p> | <p>(5)</p> <p>ア ICT を活用した業務の効率化、行事や会議の精選を検討し、学校運営の見直しを図る。<br/>イ 部活動の年間・月間活動計画、実績報告をもとに適切な休養日確保を徹底し、方針に則った適切な活動とする。<br/>ウ ゆとり週間・月間の徹底に取り組み年休取得を促進する。</p> | <p>(5)</p> <p>ア 年間時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする。〔8 名〕<br/>イ 年間時間外在校等時間が 360 時間を超える人数を前年度よりも減少させる。<br/>〔54 名〕<br/>ウ 年次有給休暇の平均取得日数を 16 日以上にする。<br/>〔16.1 日〕</p> |  |